863
131

許保里耶麻志布

許保里耶麻志布

見昆

国立国会図書館　タイトル『許保里耶麻志布』 請求記号 863-131

ガラス使用

須佐之男文庫

和歌文庫

八六三一一三一

国立国会図書館　タイトル『許保里耶麻志布』 請求記号 863-131

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『許保里耶麻志布』　請求記号 863-131

ガラス使用

序

古人云英雄有閑日月其然乎
親 江奥州可知矣公當永正天
文之際征畧中外兵馬剋之間
歌詠自娯風藪兼
秀豈徒習筆硯而已哉世之

国立国会図書館　タイトル『許保里耶麻志布』　請求記号 863-131
ガラス使用

雅也吾藝吉田公就山為　公布教
山水幾有榮慶義堂在其召生之
秉訪余以詞藻未嘗勤令爲
某月日屬　公二百里人脅議覺
追慕諸北益多士
涤成編首置墀陛圖且扵

出　公國寔爲之寓仰慕
意名曰鄰山集上梓有日而請
序於余曰方今牧
無暑武一無所施用扵文
壇各張旗幟以爭其雄豈此先
亦何以觀一境之利鈍耳我

国立国会図書館　タイトル『許保里耶麻志布』　請求記号 863-131
ガラス使用

一时款洽翰墨相与
知无忌胸襟洒然领略地下乎道
书为时
文政庚辰之岁夏五月中之日

赖杨题

辰州图志物产之著者寿永之
帝载之地山川之秀钟为诸侯之
八洲也实赖诸侯之力而诸侯之
一江之流乃生之因缘之
乃以我邦六百年之
为之雄长而
为之雄长而
为之雄长而

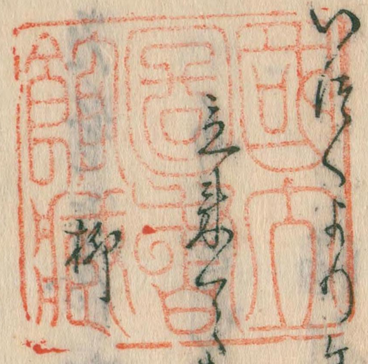
はるかまはまちどほにかすみこめ
かみ〳〵おぼえもあへずあはれ
人なつかしくおもひ出ぬ
元禄の夏のもはらくに都をば
もおもはいでくさ枕ゆめもおよばず
芭蕉とのゝ御光組ばりしてむさう
なるさまはかの業乃あり
ま誰うれ
ゆるものゝあるを祝赤間硯

筆をはなるゝとおもへばおもひ
出もおほの里の人〳〵
まりてめ〳〵一集もものせまほ
水風土の人〳〵よみもて里人
文中にはさらにおもひたはも
おのもも〳〵序着の一人とゝなれる

鳥亡

光就公卿詠歌并連哥御發句

年内立春



いかくまの　年ふる松も　春立ちて
　立春のめを　見るそうれしき

誰うかも　かくまの松の　千代ならん
　立春のめを　見るそうれしき

まつ物乃　いとゝ千歳を　重ぬらん
　立春のめを　見るそうれしき

中の兄まで皆集会を見侍りて

国立国会図書館　タイトル『許保里耶麻志布』　請求記号 863-131
ガラス使用

許保里耶麻志布

元亀第二庚申林鐘中旬
陸奥守元鎮朝臣
かくれ三日のうちに
しかるべきのことはおすひなうら
古来稀なるとしの
かはいつゐめぐみなと
とりく隅宿

ゐうきおよかしさ兒手
て民かまて國かおさむるはう
めくまく内うい心乃四流を
た月乃夕折ま多港てたよ
なくはえ給ふとのおまも世よ
ゐふ人まうけまは佛神も
ゐとさはくく乃都とも
ふもゐう我他のうまを

国立国会図書館　タイトル『許保里耶麻志布』　請求記号 863-131
ガラス使用

みちよやあらそふ事もいとうくて同十四日巳刻
ばかりにかくれ給ひぬ大かた人のうへ
さかりなるほどはいかなる事もおはしますと
うちたのみきこえさせてをるに
今日頼洞春居士乃香量尓一巻が書
寫し終る四句の次尓尾張二君と綴て願
郷情を述給ふものから
なくなけれの枝中峰悼の
波もりもよそそそそうる郎
壽量尓のあ波
一村もゆ月日をへて
まうよりたる紀あやうく
僧正道澄

おハ醍醐院法親王の
遠国まいらる頃光利家ゐおもてもの
寫し今里人仁ゆ

国立国会図書館　タイトル『許保里耶麻志布』 請求記号 863-131

ガラス使用

郡山懐古　賴惟柔

帯礪於今称徽厥舊都荊棘使人
愁達生曽育三千賈席巻俄并一
十州奇策用兵攄敵氣多寸摘藻
績家流寧知孫裔移封玄古墓年
年野草秋

和の部

弓箭乃名ある人の
もの〻ふ〻ち〻ゆ〻ゑ〻ま〻ん風
武士の

出羽の国香里山とうふ
大江元就のすゑ孫
うたのさま〻毎おの〻里なる
通歌のやうのものを
うたふ乃未そうりそみてかもる

成元、

通顕

かくのごとき詩をつくるのめぐまれたるをうらやむ

郡山なのかりてくまいたる事の
ありなるよしいひくるのつかさをゆるして

晃演

弓矢をとりてくいとうらやましき事を今
後うまの事のよろこびなり

謁毛公墓

釋宗朗

萬騎横行併十州家庭壮士漢諸
侯老来戈戟疲封豕亂後衣冠笑
沐猴尼子城頭寒水苦毛公墓畔
夕陽愁誰知革命為今日空使功
名付帛番

安氣河野生本亦有此和歌

飛井相公以為好詠生因請余

賦其歌意以詩云　皆川愿

孤軍嘗見扳山雄覇業時遷陳迹

空只有嶺松依舊在猶掃荒墟送

風

おとろえおのれをや攻れをの敗るる
らん勝負をこそまわれ国をまもり君
ぬ乃西よりめぐりし名をよろづ代よ
武将乃墟那もは今もむらむらと
恐ろしおとてるんのれるて式山乃頂城
麓おかれ光本残り二の丸三ぬもの
会屋厩警備的場馬踏ひ名
寛よ渡巴堂わりもし松そ

ゆうし普乃作を作ふ満願寺井い底那一の
名のこころ古池身のいる蛙子むい今も男時を
たう一反渓へ等作もう手毛松志乃りて二光乃
影をうへもう次山の半にも天照お日神のよ家の
水清く流毛榊麻の素戔鳥尊よ多程をしくを
てう九い吉祥稲庵谷を頂ら谷の荒神考祢の
社いお生の名よ迄一樹の松よ隣る妙見の祠をふのお
ろさ仕そ前なる谷と開い天平十二年の秋行基

国立国会図書館　タイトル『許保里耶麻志布』 請求記号 863-131
ガラス使用

菩薩觀音の尊像お安置
済住ありたまえまつりそのよ
祇園谷大雲院谷と経て
洞窟もの妙法の風落ち
善表瑞ん雛おさめたまえ年
をたひのおく序を向のわ
元結るなる花みも法霊
はるさそう路々彩く

連子會下山村烟は人生者必滅 社會をそうる小様う
うの事好うえ紀をおうとおうまつ
太元の二見浦の谷そい伝者の社国見山のおそうた
おりて松の本間を好えまで出ま事好うえ忘竜松うの
の里を望に牛松主事好うえ忘竜松うの楽業とそうた
う思事と脊負病利は大原乃里も思ふ出ふくまき
とう奥楽原乃民家を本の好 朝多鳴
まお後く鶏飼う舞主後の宝落合の

国立国会図書館　タイトル『許保里耶麻志布』　請求記号 863-131

ガラス使用

奉納誹諧發句

大氏やちりも捨ても秋の柳　トロニヘ　篤老
名月や露乃流るる尾うら　スハリ　士朗
考〳〵見るやすゝきも折〳〵　京　荼虻
夫ゟ跡ハ月にかくれぬ雲ハ　トロニヘ　立鹿
志のくゝや時雨ハはるる苔ふる　三河　不轉
菜の色や琵琶弾し宵も過ぬ　トロニヘ　梅仏
猫妻や乞れとゟを歳上　里風

乃ち火桶てゝ山ゟ高〳〵と　イハミ　轉蓬
松ハ皆ありけり春ハ霞ふる　下セキ　羅風
ゟ〳〵雨ハ夢ゟ尾ゟ月あり　西嶽　梶雨
きのふゟ昨ハ咲ても古枕　白帝　外遊
塚古い老もぬ松ゟ風ふるゝ　汀湖
等や山ゟ〳〵ゟ〳〵ゟ〳〵ゟ　林阿
雪ゟようゟ塚ゟ日の光ふる　下セヒ　素風
幻ゟ月ゟや雪ゟ月ゟ　トロニヘ　九十

国立国会図書館　タイトル『許保里耶麻志布』　請求記号 863-131
ガラス使用

守明	ヲ許
流之	
文雄	サトカシヘ
文衣	ヒロシヘ
淇水	
武陵	タシハ
静厄	ヲ許
早鶏	

押桂	ヒロシヘ
臨霞	ヲ許
濤々	
舛六	十六
西坡	ミタニヒ
得后	
古江	ヒロシヘ
荷香	乙

国立国会図書館　タイトル『許保里耶麻志布』 請求記号 863-131
ガラス使用

十八
尺艾
九折
萬羽
一茶
西条
玉斧
南鴎
甲山
如耕
淇江
高瀬
松雨

西条
紫籬
覓
梨雪
虎嵐
阿波分十二箭
白飛
甲山
列陽
九康
九折
南芦
盛雲

まゐ〳〵とも芒てふりや松の雪
為ゐもし膝もとゞかまぬ多の上
古ふとのあゐ〳〵に集や苔すゝ
伺さゝや二百集ほの城の弘
杉ぼう吹たまりてや苔のむ
多松や松年様ぶたゞ〳〵鳥
玉祥乃芒年志〳〵物う秋
夕ぢ〳〵乃影ま深〳〵秋の山

礎平
十六 八千坊
ヒロシマ 渚嵐
ニヨシ 青仇
一聲
アハ 舎柳
イセ 丘高
清木

かゞ志めて見るや萄の松柏巌
喜の名ぶ仮ぞまでいふ
ふゐ〳〵やさゝも古根の土ぞ雪
久ゐこの京萄や年〳〵の雫
いくゝもの雫ぞふるゝ山のこゝ
蛩竜の雫ひゞて雫の秋
月星乃芒年ゆゝ〳〵ふるゝの山
祇園會ぞゐ〳〵ぬや更の夜祭

イ 露聚
ニイハセ 葵阜
ヒロシマ 蘆洲
用治 苗梁
ヒロシマ 碧尾
出羽 、木居
峯梅
此友

国立国会図書館　タイトル『許保里耶麻志布』 請求記号 863-131
ガラス使用

ヒロシマ 路宅
閑事
甲斐 双鳥
品笛
ミヤサ 桃甫
イヨ 椀堂
京 月居
ヒロシマ 玄鮭

願主 聽水
凡人
羅丸
南亭
橙園
二流

卯月中旬社中にて催す題
大江朝臣の詩の意を詠めと
うけたまはりて
夫人
いまも耳もとに残りて
聞ゆるこゑ
聴水
しらぬ人
流水
亭

人亭流水硅
里風
浜水
早雞

双鳥
橙園
尤亭人水流硅

風　洪雞鳥圃尤

余詠

二流　南亭　風律　橙圓　末海　魯輅　眞澄

丁峰や釣る舟の灯も消し　儲一（ミヨシ）
、
岸山や柴を走くる秋さくら　潮水
、
そよかぜや菜のそよぐまで暑し　松宇（ヒロシ）
、
池の魚は傘のあへぎいて　大中
、
明うしお夜がすゝむ雄の水　原
、
鯖さばき子若うり冥加なる　東水（ミヨシ）
、
名物や夜のゆるめぬ家　巳流
、
いくたびも馬の毎るおまつり　玉山
、
　南塘

暑き日や星下向て眞ふたつ　奇渕（ヨシノブ）
、
麦秋の都年ふり小野乃里　鶴江（ナカサヌ）
、
中着乃浅のゆるやや時雨ぬる　鞍風
、
名月を探りに来客もあり　長嶺（サカヒ）
、
蚊ばしらを根をうしなはぬほうなり　素葉（モトノ）
、
雪吹する窓や老妻の鋏の音　梅十（ヒロシ）
、
雨ふて濁り酒うる家乃ぬくもり　三友
、
村の春〳〵ゆくや人の数　雪雄（京）

月許や屋ふく法ふきの人の
雪おとや手ごろにうつる小柴垣
楳ぼや人音そしらぬ雑世智
たゝ赤色もいと哀なる朋のもと
都鳥や入水ありし兒塚
蒲公英よ兒枕あり寺をさぬく
國ぐに乃春こゝろ〳〵牡丹の
芽をきおこれそる本陣の形

文藻
ヒロシニ
江充
ナニハ
萬和
イセ
鶴鳴
ハリー
已山
、
玉屑
子
完来
ヒロシニ
莚史

文石
化城
ミチクラ
乙二
ヒロシニ
宇柏
、
和七
甲立
真與
エト
道彦
ヲハリ
逸人

石蕗のひとゝすりやはる
一面の苔のやゝ加ふる
雪や見ぐるゝ枝ふる多哉
晝ぬるや蛤そんな
むら雨や蕨のあるゝ芭蕉
昼るゐや蛍こゝろ
大空や月にはんもの都
石蕗のひとゝすりやはる

国立国会図書館　タイトル『許保里耶麻志布』 請求記号 863-131
ガラス使用

咲時いまだ花も見ゆる力こぶ　　さくこ子　藏六
蛙とても目ざとく飛込む水の音　　イハミ　呉未
堤のつゝみと朝の匂いや餘吾の郷　　九日市　得雨
行かふも惜まる酒呑うち興じ　　川立　双山
ある笠や夏木立の法師蝉　　福山　岱雨
茶うれやいと曲りて境の色　　京　千崖
山里ながら門造なり花の春　　遊兒
なの春乃さゆる時あり冬こもる　　十六　三津人

寒つゝれぬまゝよろめく酒の酔　　ヒロシマ　素渓
茶乃もやもやもり込る水の音　　一波
あるさ物法華は高き柿のもみ　　アラミ　千歩
江干清る家乃娘や野の春　　人　桃谷
ひろふる貝ゆく春よ望ならし　　ヒロシマ　三花
蝸牛の宮ゆれときき売子哉　　野ゝ口県　葛三
多飲んさ行くのゆく春の酒　　カセ　漫々
其夕月梅のあるじの枝折なるし　　平　成美

佛にそそ藤のそそ朝の秋
駁きや雪そそ行く白の春
枝ふも雫そそ梅乃往う秋
絵その入ゆそ峰う駱乃春
勝こへそ峯等の清や雪
大立教の中まそ自乃お
まそ松のそ流そ切ぬいなう
先そ乃ふそ窓くあるこ雪の

元人
野笛（澤川）
圭系蘭（三良坂）
隻雲（ヒロシマ）
玄々
杳坊（イツモ）
菱亭（フンコ）
鶯笠（ユト）

凉きや海かなそそのそ
まこいそのハ資ぶ乃雑ま雪
ふ庵の夜そ官ふそ令郎し

桂眉（引舟）
阿九（ノミ）
虎道（ヨノミチ）

夕そや姓そんの馴やまそ
村雨や芒乃うへさそのそ

圭雨（ヒロシマ）
甘古
茶隠（ミハラ）

陽自ゆそ鶏雪乃山本
汗枝ふ傷門乃ふ浦の

馬来（用作）

まそのふ名そゆまそふ明ふそ

恭哉（タフサ）

タニナ　椛兒
サ手　南溪
イセ　椿堂
ヒロシテ　小水
、　六谷
　　雞尤
　　聽水

国立国会図書館　タイトル『許保里耶麻志布』 請求記号 863-131
ガラス使用

863
131

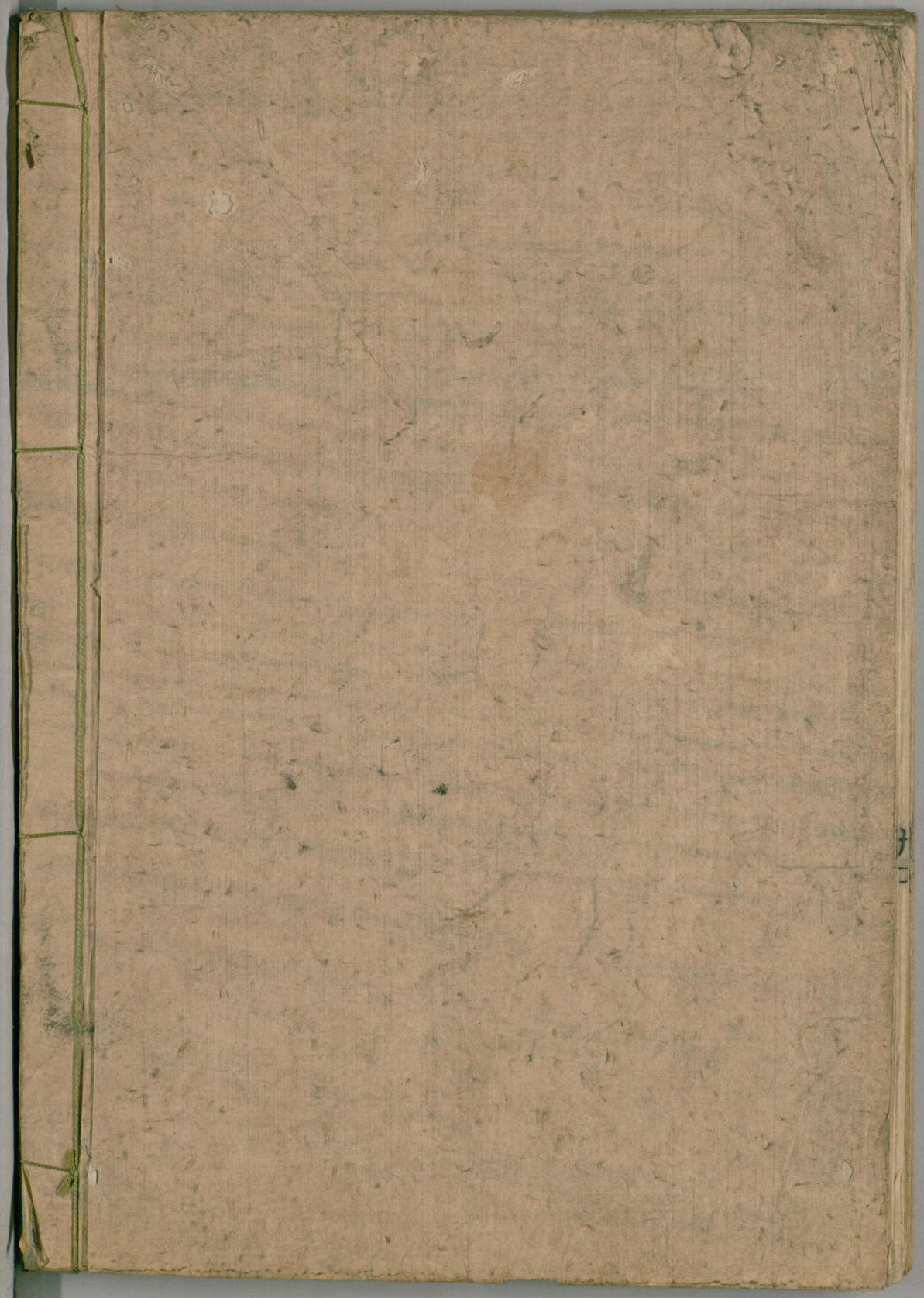
ようをもかく人ふるものまつ
かゝて愚古の発句をおし
書とゝめていはゝやあ
十そよ歟九結ふまでかな
て我魚の狂ふ元もいとおか
梅木ゝよするおとゝ集
大江のそのせおほいふるいさゝ
蓬萊かしこ物をたく
ものまさる人等るめて
ここまのいとも万めるおく
二年ともかゝを二百七十年のおとゝ
いまそのあへまかいけるゝ

文政三年冬　多賀庵玄蛙誌

14194

国立国会図書館　タイトル『許保里耶麻志布』 請求記号 863-131

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『許保里耶麻志布』　請求記号 863-131

ガラス使用